行事等報告

日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム

―人と動物の共通感染症を考える―「狂犬病の現状と対策」開催される

平成26年10月28日(火)，日比谷公会堂（東京都千代田区）において，「日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム―人と動物の共通感染症を考える―狂犬病の現状と対策」をテーマに，日本医師会と日本獣医師会の共同主催，東京都獣医師会，人と動物の共通感染症研究会の共催，厚生労働省，農林水産省，環境省，文部科学省，日本学術会議の後援のもと，743名の参加者を得て盛大に開催された．

【日本獣医師会 酒井健夫副会長シンポジウム概要説明】

国民の中で，高病原性鳥インフルエンザをはじめとする人と動物の共通感染症の流行制御や，食の安全性に関する意識が高まる中で，医師と獣医師が緊密に連携して安全で安心な社会を構築することが求められております．

また，世界ではマンハッタン原則に基づくOne Healthの理念が浸透し，人と動物の健康，さらには健全な環境の推進を目指して活動が活発になっております．

世界医師会と世界獣医学協会は2012年に協力関係を構築する旨の覚書を取り交わしました．これらの状況を踏まえまして，公益社団法人 日本医師会と公益社団法人 日本獣医師会は，昨年11月20日に学術協定を提携いたしました．本日のシンポジウムはこれに基づく第1回目の記念すべきシンポジウムであります．

本日は，我が国では60年もの間，発生が確認されていないものの，犬へのワクチン接種率が極めて低く，グローバル化が進む社会において，侵入リスクが常に存在する狂犬病を取り上げました．

開催に際しまして，共催をいただきました公益社団法人 東京都獣医師会及び人と動物の共通感染症研究会，後援をいただきました厚生労働省，農林水産省，環境省，文部科学省，日本学術会議に御礼を申し上げます．また，地方獣医師会，特に多くの構成獣医師の参加をいただきました，千葉県，埼玉県，東京都，神奈川県，横浜市，川崎市の各獣医師会には，シンポジウム開催へのご協力に厚く御礼を申し上げます．

それでは主催者を代表いたしまして，最初に公益社団法人 日本医師会横倉義武会長からご挨拶をいただきます．よろしくお願いいたします．

【日本医師会 横倉義武会長挨拶】

本日は日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウムの開催にあたりまして，日本医師会を代表して一言ご挨拶申し上げます．

本日ご参加の皆様方におかれましては，日頃より感染症対策や診療，また，人間の食の安全確保など多岐にわたり多大なご尽力をいただいておりますことに感謝と敬意を表する次第であります．

さて，今世紀に入りウエストナイル熱や重症急性呼吸器症候群，鳥インフルエンザ，豚インフルエンザ，このような動物由来感染症が世界の各地域で発生し，尊い生命が失われています．また，近年は強毒性の新型インフルエンザの発生が懸念され，さらに今年の夏はデング熱の流行があり，その他にもマダニを媒介するSFTS，アフリカにおけるエボラ出血熱など新興・再興感染症に関する対策が急務となっており，世界の注目が集められているところであります．

特にエボラ出血熱に対しては，西アフリカでの増加が世界的に脅威となっております．本年10月には世界医師会が南アフリカで開催されましたが，世界医師会としてもこのエボラ出血熱のアウトブレイクはグローバルな問題であり，世界中の医療資源を投入して早急な終焉を迎えなければならないという決意をして，これに向けた活動を始めたところであります．また，昨夜はエボラ出血熱の国内発生の可能性が疑われるという非常に緊張した一晩を過ごしたところでありました．幸いにして遺伝子検査では陰性ということでございましたので一安心しているところでありますが，いつ何時そのような状況になるかわからないという状況が続いております．

このように，感染症の動向が日々変化しているなか，2012年10月，世界医師会と世界獣医学協会が動物由来感染症対策，食の安全の向上等のために協力関係を構築するための覚書を締結しております．この締結を受けまして，我が国においても獣医師と医師との連携，並びに協力体制を強固なものとし，安全で安心な社会の構築に向け，2013年11月20日に日本獣医師会と日本医師会

との間で学術協力の推進のための協定書を締結したところであります．本日のシンポジウムは，両者の密接な協力関係のもと，医療と獣医療が一体となってOne World, One Health社会の構築に向けた取り組みの第一歩として人と動物の共通感染症である狂犬病をテーマに開催する運びになったものであります．

狂犬病は1957年以来，我が国で発生しておらず輸入症例のみでありますが，世界の多くの地域では依然として発生がみられており，日本は常に侵入の危険にさらされております．また，飼い犬の予防接種の実施率が近年低下をしているとも伺っております．従いまして，狂犬病の我が国への侵入や国内での感染拡大に備えた対策が重要であるものと考えております．

人と動物の共通の感染症対策については，感染症について正しく理解してその予防を図ることが大切であり，その対応においても医師と獣医師が連携をすることが必要不可欠であります．これまでも医師と獣医師はそれぞれの立場から着実に取り組みをしてまいりましたが，医師と獣医師とが力を結集することによって，さらなる感染症対策の推進，ひいては医学・獣医学の進歩につながるものと考えております．

本日は著名な先生方からの貴重なお話をお伺いできますことを期待いたしますとともに，本シンポジウムが本日ご参加の皆様方，日本獣医師会と日本医師会にとりまして実りあるものとなりますことを祈念いたしまして，挨拶とさせていただきます．

【日本獣医師会 藏内勇夫会長挨拶】

本日は早朝から日本医師会と日本獣医師会の連携シンポジウムにたくさんの皆様方の参加をいただきまして誠にありがとうございます．

今回のこのシンポジウムの開催にあたりましては，ただいまご挨拶をいただきました日本医師会横倉会長をはじめ，関係者の皆様方に大変なご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げる次第でございます．

また本日は，とてもお忙しい先生方に講師を引き受けていただきました．皆様方には狂犬病に対する大変有意義な情報提供ができるものと信じているところです．

昨日，伊吹文明衆議院議長から「獣医師会と医師会は人と動物の健康を守っていただいている．大変ありがたいことであり，今後とも深い連携を期待いたしている．」とのお言葉をいただきました．政治の世界でも随分関心を持っていただいているようでございます．

本日は，会場が代々木公園でなくて良かったと思っております．また，エボラ出血熱の感染が疑われた方が陰性であったこと，これも幸いであります．

これまでに55の地方獣医師会のうち13の地方獣医師会で医師会との連携が行われました．これからもずっとこれを広げていきたいと思っておるところでございます．

今後，動物介在療法を含め，チーム医療等の分野においても我々は一生懸命，医師会を手本として頑張ってまいる所存でありますので，今後とも皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げ，今回のシンポジウムに対する御礼とさせていただきます．どうぞよろしくお願いいたします．

【講　　演】

講演に先立ち，本シンポジウム座長の岐阜大学 石黒直隆教授，国立感染症研究所の森川　茂獣医科学部長の紹介が行われた後，講演を開始した．

初めに，国立感染症研究所獣医科学部第二室の井上智室長から「我が国における狂犬病対策の現状と課題」として，我が国の狂犬病対策における医療・獣医療の緊密な連携が必要である旨の内容の講演が行われた．

続いて，台湾大学の費　昌勇教授から「2013年前後の台湾における動物の狂犬病発生の疫学研究」として，台湾における2013年を中心とした狂犬病に関する状況報告についての講演が行われた．

さらに，フランスの狂犬病WHOコラボレーティングセンターのEmmanuelle Robardet女史から「世界における動物の狂犬病発生抑制の現状と課題」として，世界におけるワクチネーションプログラム等による狂犬病制御の過去・現在の状況についての講演が行われた．

次に，日本国内において36年ぶりに発生した人の狂犬病発生事例を担当された洛和会ヘルスケアシステム洛和会丸太町病院の二宮　清院長から「我が国で36年ぶりに発症した人の狂犬病事例と対応上の課題」として，当時の臨床経過や検査結果，担当した医療従事者の感染予防対策，このたびの経験から得られた狂犬病発生時の感染防御対策の重要対応事項等について講演が行われた．

最後に，大分大学医学部の西園　晃教授から「狂犬病の病原性と予防・治療法の現況」として，狂犬病ウイルスの病原性，狂犬病に対する現在の予防法と治療法についての講演が行われた．

それぞれの講演では時間の許す限り積極的に質疑が行われるなど狂犬病に対する関心の高さが伺われ，本シンポジウムは盛会のうちに幕を閉じた．

シンポジウム座長（岐阜大学 石黒直隆教授（左），
国立感染症研究所 森川　茂獣医科学部長（右））

Emmanuelle Robardet
（狂犬病 WHO コラボレーティングセンター）

井上　智（国立感染症研究所獣医科学部第二室室長）

二宮　清（洛和会丸太町病院院長）

費　昌勇（台湾大学教授）

西園　晃（大分大学教授）